

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果を公表します

文部科学省は、今年4月21日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果等を公表しました。市教育委員会では、市内児童生徒の学力状況を知っていただくために市民の皆さんに広くお知らせします。

なお、この調査は、児童生徒が身に付けるべき学力の一部であり、学校における教育活動の一側面を調査したものです。

### ◆調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

- ・ A問題（国語A、算数・数学A）…主として「知識」に関する問題
- ・ B問題（国語B、算数・数学B）…主として「活用」に関する問題

#### (2) 質問紙調査（児童生徒に対する調査）

- ・ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する意識及び調査



### ◆教科に関する調査の結果について

教科	結果	改善のポイント
小学校 国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語A（知識）について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っており、今回出題されている学習内容をおおむね理解していると考えられます。</li> <li>○国語B（活用）について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率並みで、習得した知識・技能を実生活で活用、応用する力もおおむね備わっていると考えられます。</li> </ul>	読書だけでなく、様々な種類の文章や図、資料を多く読んで、自分に必要な情報を取捨選択する力を高める必要があります。
小学校 算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○算数A（知識）について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っており、今回出題されている学習内容をおおむね理解していると考えられます。</li> <li>○算数B（活用）について、市内児童の平均正答率は、全国の平均正答率より若干低く、知識・技能を活用する力や生活経験の不足に課題があると考えられます。</li> </ul>	量感を豊かにする具体的な活動を多く取り入れ、日常生活の中で事象を数理的にとらえ、情報を整理して筋道を立てて考える能力の育成を図る必要があります。
中学校 国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国語A（知識）について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率にほぼ近く、今回出題されている学習内容をおおむね理解していますが、更なる定着の必要があります。</li> <li>○国語B（活用）について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率並みで、知識・技能を活用する力もおおむね備わっていると考えられます。</li> </ul>	新聞、コラム、リーフレットなど多様な文章を読んで、実践的な読解力を高めるとともに、日常的に自分の考えや意見を簡潔な文章にまとめる活動を充実する必要があります。
中学校 数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○数学A（知識）について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より若干低く、基礎的・基本的な知識・技能の定着に課題があります。</li> <li>○数学B（活用）について、市内生徒の平均正答率は、全国の平均正答率より低く、全国の傾向と同様、知識・技能を活用、応用する力に課題があります。</li> </ul>	授業の中でデータをもとに考察する活動や、表やグラフを通して考える活動を多く取り入れ、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を考える学習を充実する必要があります。

### 【前年度との比較】

小学校は、A問題、B問題ともに前年度より伸び、中学校も、A問題、B問題ともに前年度より伸びました。特に、中学校の国語Bは大幅に伸びました。

### ◆児童生徒質問紙調査の結果と教科に関する調査の結果との比較による分析結果

#### ●主な傾向

- 朝ごはんの摂取、早寝早起きなど食生活や生活のリズムが安定・確立している児童生徒は、そうでない児童生徒よりも教科の正答率が高い傾向にあります。
- 授業でノートを丁寧にとることができる児童生徒や、文章を書くことが好きな児童生徒は、教科の正答率が高い傾向があります。
- 学校の決まりや友達との約束を守るなど、規範意識の高い児童生徒は、教科の正答率が高い傾向にあります。

#### ●主な課題

- 市内の児童生徒は、平日の家庭学習時間よりも土日の家庭学習時間の方が短い傾向にあり、土日の家庭学習時間の確保が課題となっています。

【問い合わせ】市学校教育課（6階） ☎ 0994-31-1137